

山形県立中央病院における病床再編について

1. 病院の概要

- (1) 設置主体：山形県知事
- (2) 職員数：998名（平成30年5月1日現在）
内訳（医師113名、看護師662名、医療技術職171名、事務職52名）
- (3) 病床数：（再編前）658床（一般病床）、（再編後）607床（一般病床）

2. 病床再編計画

(1) 病床規模の適正化

平成26～28年度、病床利用率（総務省方式）は85%を切り、当時の病床数645床（人間ドック15床除く）のうち平均100床以上が空床となっている状況であったことから、地域医療構想を踏まえ、病院全体の病床数を最適な規模に見直すとともに、病院機能の効率的な運用を図るため、平成30年4月に急性期病床50床（9階東病棟）を削減した。

(2) 回復期機能の充実

この削減に伴い、2階のリハビリテーション室を9階東病棟に移設する。また、リハビリテーション室移設後の2階については、「患者サポートセンター（仮称）」を設置する。

こうしたハード整備により、退院患者の回復期機能の充実につなげる。

3. 整備計画の内容

(1) リハビリテーション室の移設・機能拡充

山形県病床機能分化連携施設・設備整備費補助金を活用し、次表のとおり、2階リハビリテーション室の移設及び機能の拡充を行う。

項目	内容
整備概要	① 2階リハビリテーション室は、9階東病棟への移設。 ② 5階食堂兼ディルームを改装して5階リハビリテーション室とする。
整備費	工事費計55,681千円（9階東53,537、5階食堂兼ディルーム2,144）

※患者サポートセンターは、平成32年度以降に2階リハビリテーション室跡地に整備。

(2) スケジュール

平成30年4月の急性期50床の削減に伴い、同年度中のリハビリテーション室の移設を計画していたが、その跡地に整備する患者サポートセンターの配置機能（入退院支援に限定するか否か）や、リハビリテーション室の移設及び患者サポートセンターの新設に要する整備費（2年間、約4億8千万円）の予算化で30年度は調整がつかず、規模や配置の面で再検討した結果、以下のスケジュールにより、平成31年度に移設・改装を行うこととなった。

なお、平成 30 年 3 月に 7 階食堂兼ディルームをリハビリテーション室に改装し、脳血管疾患等リハを実施している。

時 期	内 容
31 年 4～8 月	整備施設の実施設計の発注・委託
31 年 9～11 月	実施設計の積算・発注手続
31 年 12 月～ 32 年 3 月	リハビリテーション室移設及び改築工事・引越・再開 ※引越時は、2 階リハビリ室の器具を移転。5 階にはエアロバイクを新規導入。

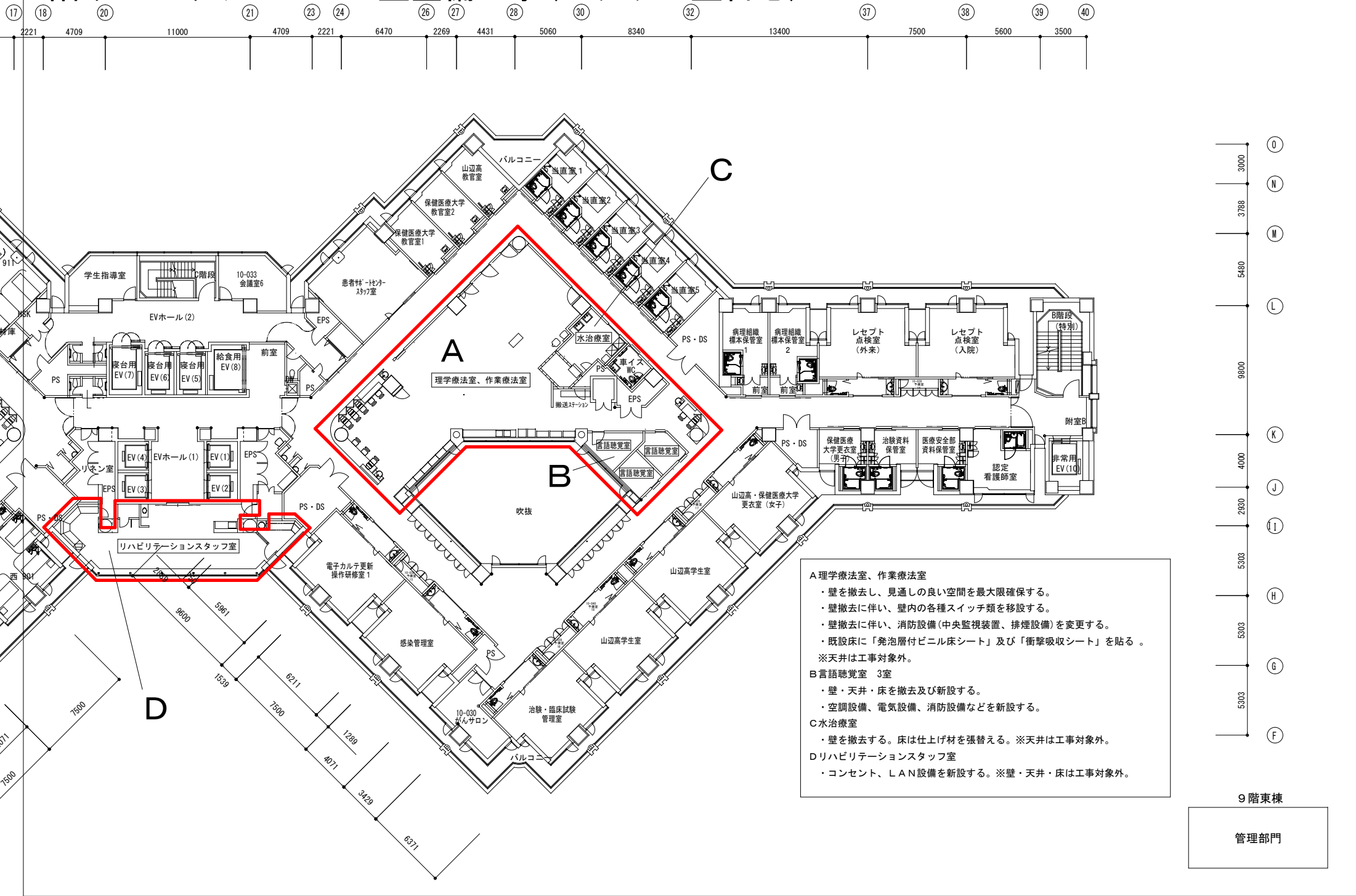
4. 整備事業の効果

今までは、入院している病棟と 2 階リハビリテーション室とのエレベータによる往復移動を余儀なくされ、リハビリ患者に移動と待ち時間の負担がかかっていたが、リハビリテーション室の移設により、5 階(循環器内科、心臓血管外科)及び 7 階(神経内科、脳神経外科)の入院患者の場合には、それらが大きく改善される。

更には、5 階、7 階及び 9 階とリハビリテーション室が分散することにより、5 階は心大血管リハ、7 階は脳神経疾患等リハ、9 階は運動器リハ、呼吸器リハ、がん患者リハとすみわけが可能となるとともに、リハビリテーション室が病棟と近くなることから、リハビリを実施できる単位数及び患者数も増加が見込まれ、入院患者の回復期機能の充実につなげる。

また、患者サポートセンターの設置により、当院における入退院調整の能力が向上し、これにより、患者の在宅復帰に対する機能を強化することができ、回復期機能の一層の充実につなげる。

9階リハビリテーション室整備工事(スタッフ室含む)



- A 理学療法室、作業療法室**
- ・壁を撤去し、見通しの良い空間を最大限確保する。
 - ・壁撤去に伴い、壁内の各種スイッチ類を移設する。
 - ・壁撤去に伴い、消防設備(中央監視装置、排煙設備)を変更する。
 - ・既設床に「発泡層付ビニル床シート」及び「衝撃吸収シート」を貼る。
 - ※天井は工事対象外。
- B 言語聴覚室 3室**
- ・壁・天井・床を撤去及び新設する。
 - ・空調設備、電気設備、消防設備などを新設する。
- C 水治療室**
- ・壁を撤去する。床は仕上げ材を張替える。※天井は工事対象外。
- D リハビリテーションスタッフ室**
- ・コンセント、LAN設備を新設する。※壁・天井・床は工事対象外。

9階東棟

管理部門